

それでは、高知県の産業振興についてお話をさせていただきたいと思います。一番最初に、今、高知県の経済がどういう状況になっているかについて、その後、高知県の強みと弱みのお話をさせていただき、それを受けてどういうことをしていくかお話ししたいと思います。

高知県の経済は今、どういう状況にあるか。1人当たりの毎年の新しい稼ぎ、名目GDPが全国第46番です。単に46番というだけでなく、全国平均の7割しかありません。東京と比べて半分しかないという状況です。今、日本は豊かですから、全国平均の7割しかGDPがなくても、食べていけないとか餓死者が出ることはありませんが、例えば新しい仕事が県内になくて、若い人が県外で就職しないといけなかったり、中・高年になっても仕事がないので、お父さんだけ県外で出稼ぎをしないといけないという非常に厳しい状況にあります。

高知県の経済が抱えている大きな問題がもう一つあります。経済というのは、ものすごく好調で、どんどん稼ぎが増えて就職する人も増えてくる時と、稼ぎが減って就職口がなくなってしまう時と二つに分かれます。これが波のように上がったたり下がったりするのが普通の経済の姿です。昔は高知県も、日本全体が良いときは、差はついてはいたけど良くなって、悪くなる時は悪くなってを繰り返していました。ところが平成12年から平成19年にかけて、日本全国でも戦後最長と言われるぐらい経済は好景気で、全国や四国の他の県も調子が良かったんですが、高知県だけは全然良くなることのできない時期が7年間続きました。そして今、全国が悪くなり、それに合わせて高知県も悪くなっているという状況です。

全国が良くなる時にも高知県は全然良くなることのできなかつたことに大きな問題があります。日本全体の経済を論ずる時には、景気が良くなったら加熱しすぎないように、もう少し冷まそうとし、景気が悪くなったらこれ以上悪くなると大変なので、経済に熱を入れて早く良くなるようにするのが、普通の経済運営です。だけど高知県のように、景気が良くても悪くてもずっと低迷している県は、一言で言うと、経済の体力が根本的に弱ってしまっています。それが今の高知県の現状だと思っています。

景気が悪いときには、緊急経済対策や補正予算で対応すればいい。これは外科手術をするようなものです。でも、経済の体質自体が衰えているときには、体力そのものを強くしていく対策を取らないといけません。例えて言えば、漢方療法をやったり、日頃から毎日ランニングや筋トレをやったりして、少しずつ体力をつけていく。一部に刺激を与えたぐらいでは高知県の経済は良くなりません。必要なことは、経済のいろんな分野においてそれぞれの問題を克服し、そして強みを伸ばしていくための対策をとること、それをやろうとしているのが、この高知県産業振興計画ということになります。これは高知県の経済の体力を強くしていくための対策です。

機会を徹底的に生かし、脅威はできるだけ取り除くという対応をとろうとしています。経営学の用語でSWOT分析というのがあり、Sというのは強み(strengths)、そしてWはWeaknessesで弱み、OはOpportunities(機会)、Tは恐れでThreatsということになりますが、強みを活かし弱みを克服し、機会を生かして脅威を取り除く。産業振興計画は、いろいろな人と分析をして、どういう対応をとるかについて話を固めつつあるところです。